

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471504542		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	福山ケアセンターそよ風		
所在地	広島県福山市松永町3-21-70		
自己評価作成日	平成30年2月19	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の過去の生活状況を把握し、その人らしい生活を送れるように配慮しております。また体調管理をしっかりを行い、一人一人のペースを大切に家庭的で笑顔の絶えない日々を送れるようにしております。また、職員が健康で笑顔の絶やさぬよう気をつけております。事業所内にデイサービス、ショートステイもあり入居前にそよ風を知って頂き、慣れて頂ける様にもなっております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	平成30年3月2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は松永駅の近くで、家族の訪問に便利な場所に位置している。ケアの特徴として次の3点を上げることができる。1つ目はその人らしい暮らしを支援するために利用者本位のケアに努めていることである。一日の過ごし方は自由で、利用者のペースを尊重している。生活リハビリを通して自立支援に取り組んでいる等の事例がある。2つ目は防災の取り組みである。年3回の避難訓練は夜間想定や抜き打ちの避難訓練、自然災害に対する訓練等を行っている。備蓄の用意を含め、きめ細かな実践を行っている。3つ目は協力医やかかりつけ医との密な連携である。利用者の主治医と事業所が連携し、往診の体制を築いている。また、緊急時には夜間でも医師の指示を得ることができ、適切な医療を受けられる。この様な実践をするために、年間を通し、テーマに沿った職員研修も行き、利用者がその人らしく、穏やかな暮らしを営めるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果【華】

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム理念の「一人の言葉を皆で聞く。」をミーティング等にて職員に周知。エレベーター前に掲げ把握しやすくし、業務につなげている。	事業所の理念の他に各ユニットの職員で話し合っ作成した理念を掲げている。また、新人職員に対する理念の研修を行っている。	グループホームの理念と各ユニットの理念の実践についてミーティング時に振り返り、実践につなげる取り組みが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ないが、センターの周年祭や夏祭り等のイベントを開催し、地域の方へ案内・参加して頂いている。又、月に1度「そよ風通信」を作成し運営推進会議を通じて、事業所の取り組み等を伝えている。	周年祭や夏、秋の祭りには地域に案内を出し、およそ百名の参加を得て交流している。また、町内会に加入し、地域清掃にも参加している。運営推進会議で住民からの相談に応じたり、地域の中学生の体験学習も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて入居者様の様子や取組を報告し、理解を得る様に活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催。地域の方や市役所等の方に参加して頂き、取り組み内容や事故等の報告をし、話し合いを行っている。	2ヶ月に一度開催し、家族や利用者、民生委員、包括支援センター、市の担当者、町内会、地域住民の参加を得ている。また、家族の参加を促すために土曜日にも会議を設定するなどの工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて、情報交換を行っている。	介護認定時や情報を伝えるために管理者やケアマネージャーが担当部署と連携し、情報交換を行っている。又、運営推進会議への参加を要請し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束・虐待防止委員会」を設置し毎月全体会議やミーティングにて現状の報告を行っています。また、スタッフへのアンケート等を実施したり、研修等も定期的に行っています。	委員会を設置し、職員にもアンケートをとり、現状把握と研修を重ね、身体拘束をしないケアを実践している。利用者への取り組みを家族に説明し、ベッドの下に赤外線センサーを設置し、安全性や価格、多方面での検討を重ね、工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修や会議等での報告や確認を行い、虐待が起きない様十分に注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、こちらのユニットで成年後見人制度を利用されているご利用者様はいませんが、制度等に関しては研修等で周知しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書・重要事項説明書等を説明する時間を多く取り、ご家族様にご理解・納得頂けるように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。又、ご家族様が来られた際には、ご本人様の様子等について報告し、希望や要望を確認している。	家族の面会時に利用者の様子を伝えると共に意向を聴き、職員間で申し送りノートを利用して情報を共有している。また、その後の対応等を家族に報告している。運営推進会議でもレクレーションや外出についての意見や要望が出され、対応を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議やミーティング等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、定期的にスタッフとの個人面談等を行っている。	ミーティングでは職員の発言を促す質問を投げかけ、物品の配置や業務分担等多くの意見が出されている。提案について、まず実践し、改善点があれば工夫している。また、概ね月1回は職員と面談し、意向の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個々の力を十分に発揮し向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングにて、毎月研修を開催。個々の力量を把握し、苦手な分野等に関しての指示やアドバイス等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社で「グループホーム協議会」を設立し、定期的な情報交換の場を設け、話し合い等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にケアマネージャーや家族等から情報を頂き、ご本人様が困っていること、不安に感じている事の把握を行い、入居時には全スタッフが周知できるよう、ミーティングや送りノート等にて周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前には必ず見学等にて時間を設け、困っていること、不安なことに関して確認を行い、安心して入居して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、ケアマネージャー、本人からの情報を把握し、支援専門員と共に最適なサービス内容を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者としてではなく、同じ環境で暮らす者同士、調理や掃除等の生活リハビリを共有し、関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との絆を大切にし、来苑された際は居室や別室にて話ができる環境を提供したり、本人様が安心して過ごして頂けるよう家族様に相談し、アドバイスや情報の共有を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出等は少ないものの、家族や親せき、馴染みの人が多く来て下さっており、関係の継続は出来ている。	友人や家族、親戚の訪問が多い。湯茶の接待をし、ゆっくり話し合う機会を設けている。また、墓参りや帰宅等、利用者からの要望は家族に伝え、協力を得て実践し、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	手作業や小物作り等のレクリエーションや体操を通し、会話や交流する時間を増やし、孤立しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご連絡を頂くこともあり、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様から寄せられた言葉等を大切にし、本人に合った生活や支援を行うよう努めている。	利用者理解に努め、起床時間や食事時間、夕食後の過ごし方など、利用者の習慣やペースを尊重している。おやつや献立等、意向に沿えることは事業所主体で対応し、外食や墓参り等、困難な要望は家族の協力を得て対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等を把握し、ご本人様が過ごしやすい生活環境を提供できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月ミーティングにて、全員の状態等に関してスタッフでの情報交換を行い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングにて、全員の状態等に関してスタッフでの情報交換を行い、介護計画に沿った内容が提供出来ているかどうかの確認を行い、作成している。	利用者理解に努めると共に、利用者や家族からも意見を求めている。毎月のミーティングで全員のモニタリングを行い、3ヶ月に一度カンファレンスと計画を作成している。転倒や退院時等、利用者に変化が生じた時は利用者や家族がカンファレンスに参加して意見交換を行い、計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過や介護日誌、送りノートを活用し、モニタリングやアセスメントを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な変化等があった場合でも、その人にあったサービスを行う様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会からの回覧板や運営推進会議での地域の情報を把握し、ご本人様が楽しめるよう支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と休日や夜間帯も連絡が取れるよう密な連携を行い、急変時でも対応ができる体制が出来ている。	それぞれの利用者のかかりつけ医と事業所が連携し、往診の体制も整っている。緊急時には医師からの指示を直接受けることもできる。協力医との連携も密で週4、5日の往診があり、夜間でも直接指示を受けることができる。また、毎月1回歯科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他部署の看護職と協働し適切な対応が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行い、適切な処置が受けられるように支援している。入院中は病院関係者との面談や情報交換を行い、早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合等は、話し合いの場を設け、本人様、ご家族様の意思を尊重できるよう取り組んでいる。	入居時に事業所のできるものと、できないことを家族に説明し、理解を得ている。終末期を迎える段階で家族の意向を確認後、医師、家族、管理者、職員で話し合い、方針を共有している。家族の希望があれば簡易ベッドの用意があり、利用者に付き添うこともできる。職員は定期的な研修で終末期の対応や救命救急の講習を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習を受講や研修等を行い、急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回消防訓練を行っている。地震、水害等に備えて備蓄を行っている。運営推進会議を通じて報告、意見交換を行っている。	年2回の火災避難訓練(夜間想定、抜き打ちの避難訓練)を行なっている。また、地震や津波を想定した自然災害訓練、研修会では隣接する西消防署職員から救命救急の講習を受けている。備蓄は3日分の食料と水等である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議やミーティング等にてプライバシー研修を行っている	個人情報の保護の為、書類の保管、掲示物等に配慮した対応を行い、職員研修も行っている。利用者が意思決定しやすい質問の仕方や皆で話すことで表現しやすい対応を心がけている。利用者の理解、家族との連携を大切に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の意見がくみ取りやすい質問方法を行ったり、希望を表しやすい環境や対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様がやりたいこと、過ごしたい内容を優先し、支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度の理美容の実施や日々の口腔ケア等での身だしなみが整えられる環境を提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理ができる方への声かけを行い、軽作業や食器洗い等行って頂いております。	昼食や夕食は厨房の職員が作る。季節や行事に合わせた献立、鍋ものやバーベキュー等、変化に富んだメニューも取り入れ、お品書きや箸置き等、利用者が楽しめる工夫もしている。又、要望を受けて焼肉をしたり、ケーキなどのおやつと一緒に作ったり、ノンアルコールビールなど、嗜好品を楽しむこともできる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人に合った食事量や水分量を提供している。摂取量は記録し、不足時には好みに応じたものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行っている。ご本人の力に応じた介助を行い、歯科衛生士の指導のもと清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の排泄パターンを把握し、定期的なトイレへの誘導を行い、失禁等を防ぐよう努めている。	利用者の排泄パターンの把握に努め、声かけのタイミングを図り、対応している。この結果、失禁の回数が減ったり、オムツ使用からリハビリパンツになった事例もある。あえて遠くのトイレまで誘導し筋力アップにも努めている。歩行を維持することで排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヤクルト等の提供、日々の運動等を行い排便を促す工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間に関しては、午前中に実施しておりますが、希望や状況によっては午後から実施する等し、希望に沿えるよう努めております。	一週間に2~3回、一日に3名ほどの入浴支援を行なっている。脱衣所を暖め、入浴剤を使用し、利用者との会話を工夫している。入浴しない利用者には安眠を促すためや薬を塗布するために足浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は臥床の時間を設けたり、夜間は室温・湿度・照明に気を配り、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や服薬内容に関する書類をファイリングし、変更等あった際は送り等にてスタッフでの情報共有を行っている。また服薬内容に関して解らない場合は、薬剤師等へ連絡し確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やご家族様からの情報のもと、レクリエーション等を通じて気分転換を図っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会が減っておりますが、ご家族様等のご協力にて本人様の希望外出先に行かれております。	新入職員の育成や勤務体制の見直し時期と重なり、日常的な外出支援の機会が少なくなっている。利用者の要望に合わせ、受診支援や墓参り、外食など、家族の協力を得て取り組んでいる。	家族の訪問が多く、日頃から連携も密に行なわれている。利用者を支援する体制を作り、さらに協力を得て身近な場所へ出かけたり、外気浴の取り組み等の支援が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、センターでのお小遣い管理となっております。しかし、ご本人様が希望された場合はお小遣いを使用し対応しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等の手紙のやりとりは行っているものの、常に電話が利用できる状況にはなっていない。緊急時やご本人様の様子によっては、事務所内の電話を使用し対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けをご利用者様と行ったり、ご利用者様同士が歓談できる場所作りを意識している。	共用空間は温かな日差しが差し込み、過ごしやすい。利用者に合わせたソファや椅子、足置きがあり、寛ぐことができる。3つあるトイレはそれぞれに広さが異なり、車椅子使用者や自立の方に合わせた広さで使い易い。浴室やトイレ、居室はわかりやすく表示され、利用者に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	寛げるように窓際にソファを置いたり、気の合う方同士でゆっくり過ごせるよう席の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の使い慣れた家具や椅子を持ち込まれ居心地の良い空間作りを支援している。	居室は広く、明るい。カーテンは持込で、その人らしい雰囲気を作っている。備え付けのクローゼットは広く、使い勝手がよい。馴染みの家具や家族の写真、ぬいぐるみ、アレンジの生け花等が置かれ、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレ・浴室などわかりやすく表示し個々の能力を生かし、安全に自立した生活が送られる様支援している。		

自己評価および外部評価結果【桃】

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHの理念「一人の言葉を皆で聞く。」ユニットの理念「気持ちに寄り添うケア」を職員の共通認識として、日々のケアに反映させている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	センターの周年祭を開催し、地域の方をお招きし交流を図った。月に1度「そよ風通信」を作成し運営推進会議を通じて、事業所の取り組み等をお伝えしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて入居者様の様子や取組を報告し、理解を得る様に活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1回定期的実施している。近況報告や行事に関する事、ヒヤリハットの取り組み、事故報告等の実情をお伝えし、ご意見やご提案を頂いている。ご家族様の参加が増えるよう、土曜日の開催に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、忌憚のない意見やアドバイスをいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束・虐待防止委員会」を設置し毎月ミーティングを行い、身体拘束・虐待のないケアへの取り組み、啓発を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止について十分理解し、自他ともに虐待が見過ごされる事がないように、定期的にチェックリストの記入を行い、虐待の芽となる行為がないよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されているご利用者様がおられ支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約は管理者が行っている。十分に時間を取り説明し、不安な事や疑問にもその場で対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。ご家族様の面会時には職員から挨拶し、日頃の様子をお伝えしている。ご家族様からの要望・ご意見は真摯に受け止め運営に反映させるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、センター全体の会議やGHのミーティング等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また管理者は定期的に個人の意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個々の力を十分に発揮し向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量に応じて様々な研修への参加を検討している。社内での月1回の研修を行い又どのような研修に参加したいか職員の要望を聴いて取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護福祉士会主催の勉強会等に参加し、他施設の方との交流を図りサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご本人様、ご家族様の思いをしっかりと伺い、ミーティングで職員に本人様が必要とされていることを全員が周知し、安心して入居出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様としっかりお話しが出来る様、時間を区切らず、どんなことでもお話しを伺い、ご家族様の思いを尊重し安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事情をしっかりと把握しサービスが受けられるように介護支援専門を通じて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の状態を把握し持ちうる力の維持に努めている。日々の生活を通して馴染みの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様、ご家族様との絆を大切にし、職員が橋渡しができる様、生活状況の報告、外泊時のアドバイス等を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	車椅子の貸し出しを行い、ご家族様との外出を支援している。訪れた友人や地域の方とゆっくりとお茶を飲みながら、居室で過ごして頂けるよう支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間以外に体操やお茶の時間にお声掛けをして、顔を合わせてお話しをされたり、ご利用者様同士が声を掛けあえる環境作りにつとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご連絡を頂くこともあり、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前までの生活歴を把握したうえでご本人様の思いを傾聴して、ここでの生活がより良いものになるよう支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や入居に至った経緯等をご家族様やケアマネより情報をいただき把握できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	重度化が進みご利用者様の状態が日々変化するなか、お一人おひとりの心身の状態等をきちんと記録に残して、職員全体で情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向をもとに心身状態に則した介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申送りをきちんと行うと共に日々の心身の状態を経過記録に残し情報を共有している。また、その情報を介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お1人おひとりの状況を、その時々に応じて柔軟に対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通い慣れた美容院へご家族様のご協力のもと、定期的に通われている。地域の民生委員の方が来られ顔なじみの方にお声を掛けられており、訪問しやすい環境作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との密な連携を行い、休日や夜間帯も連絡が取れる体勢が出来ている。ご家族様の意向に沿った適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他部署の看護職と協働し適切な対応が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、適切な処置が受けられるように支援している。入院中は病院関係者との面談や情報交換を行い、早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	話し合いの場を設け、本人様、ご家族様の意思を尊重できるよう取り組んでいる。重度化や終末期において事業所で対応出来る事、出来ない事をご家族様に伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習を受講し、急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接の消防署のご協力、ご指導のもと年3回消防訓練を行っている。地震、水害等に備えて備蓄を行っている。運営推進会議を通じて報告、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや接遇の研修をセンター全体で行ったり、毎月のGHミーティングで確認を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いをくみ取り、無理強いせず自分の思いが表現できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の流れはあるが、出来る限りご本人さまの思いや希望が叶えられるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師の訪問があり、ご本人の希望に沿ってカットをお願いしている。化粧をされたり、ブレスレットを身につけられたり、おもしろいおしゃれが出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきをお願いしたり、車いすの方には盛り付けをお願いし職員と一緒に調理を行っている。食器洗い等も分担して行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お1人おひとりに合わせた食事量や水分量を提供している。摂取量は記録し不足時には好みに応じたものを提供し過不足のないよう提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行っている。ご本人の力に応じた介助を行い、歯科衛生士の指導のもと清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンを把握し声掛けを行いオムツに頼らずトイレにて排泄して頂けるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日二回ラジオ体操の時間を設け、しっかり体を動かして頂き、野菜をしっかり摂って頂けるように汁物を具たくさんにしたり工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おおよその入浴時間は決まっているが、なるべく希望に沿えるよう心掛けている。また、入浴日以外にも足湯を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は臥床の時間を設けたり、夜間は室温・湿度・照明に気を配り、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された定期薬・頓服等に関しては薬剤師より説明があり理解している。不明な点などは医師・薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な範囲で職員と一緒に手伝いをして頂いている。自分の仕事ととらえ、毎日の日課にされている方もおられ、役割を持って生き生きと生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力のもと、戸外に出かけられる様支援を行っている。外泊の準備や薬の管理等をご家族さまに説明し安心して外出できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の金銭管理は難しい面があり、施設の金庫で管理している。日用品等職員と一緒に買い物に行けるよう取り組んでいるが頼まれて職員が買い物に行くことが多くなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じて、ご利用様が電話をされている。年賀状・暑中見舞い等の時候のお葉書をご利用様が出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けをご利用様と行ったり、ご利用様同士が歓談できる場所作りを意識している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	寛げるように窓際にソファを置いたり、気の合う方同士でゆっくり過ごせるよう席の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の使い慣れた家具や椅子を持ち込まれ居心地の良い空間作りを支援している。写真を飾られたり、信仰されている仏壇を置かれ生活習慣を継続されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレ・浴室などわかりやすく表示し個々の能力を生かし、安全に自立した生活」が送られる様支援している。		